

夕張市

0323 千葉一光

1・地名の由来

夕張市の地名の由来は、アイヌ語のユーパロ（鉱泉の湧き出るところ）の転訛したものだといわれている。

図1 市章



2・歴史

出典 夕張市 HP

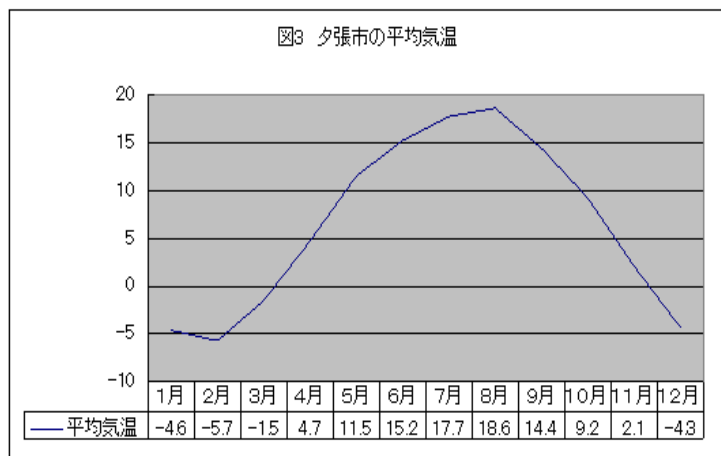
明治初期から炭鉱の町として栄え、空知地方でも特に多くの石炭を産出した町である。1874年に北海道開拓使のベンジャミン・スミス・ライマンがこの地を調査し、夕張川流域に石炭鉱脈の存在が考えられると発表し、1888年に北海道庁の技師で元ライマン調査隊隊員の坂市太郎が再調査により大露頭（鉱脈）を発見、入植者の募集と試掘が始まり多数の炭鉱が拓かれ、国内有数の産炭地として盛況を誇り、116908人の人口を抱える都市となった。しかし、1960年以降エネルギー革命が進行、海外炭との競争、相次ぐ事故、国の石炭政策の後退に直面した。鉱業者側も手をこまねいていたわけではなく、鉄鋼コークス用などの原料炭（高品位炭）など価格の高い炭種の供給に活路を見出すべく、大きな期待と成算を持って三菱南大夕張炭鉱、北炭夕張新炭鉱を開発したが、その後の鉄鋼不況により需要は伸びず、1973年に大夕張炭業所が閉鎖して以来閉山が相次ぎ、1981年には市内屈指の規模を持ち基幹事業所だった北海道炭礦汽船（北炭）夕張新炭で北炭夕張新炭鉱ガス突出事故が発生し、後に夕張新炭鉱を運営してきた北炭夕張炭鉱株式会社は倒産、石炭産業の衰退につながった。石油ショックの克服を大義名分とした官・民の多岐にわたる国内資源振興策も決定打とはならず、その後の安価・良質の海外資源へのなだれ現象、そして政府の合理化政策の前に各炭鉱の経営はギリ貧となっていき、企業は国内の炭鉱から次々撤退した。国内第一の規模・炭質を誇った夕張もその例外ではなかった。1990年に最後まで残っていた三菱石炭炭業南大夕張炭鉱が閉山した

夕張は元々炭鉱により開かれた町で、大規模な農業にも向かない地域だった上、石炭産業以外の産業基盤が皆無同然だったため雇用の受け皿がなく働き手の若者が都市へ流出し、人口が激減。街には高齢者が残る結果となり、少子高齢化が進んだ。現在では、歌志内市、三笠市に次いで、全国で3番目に人口が少ない市で、人口密度は全国の中で最も低い。現在は気温の寒暖差を生かしたメロン栽培（夕張メロン）、花畑牧場、ゆうばり国際ファンタスティック映画祭など観光の町として町おこしを進めているが、厳しい状況にある。

3・地理と気候

3-1 気候

夕張市の年平均気温は 6,0 度である。最高気温は 31,5 度で、最低気温は -19,6 度である。降水量は 1461mm で、風速は 2,0m/s、最深積雪は 181cm である。(2006 年) 山や丘陵に囲まれた地形的特徴から、四季の変化や昼夜の気温の変化が大きく、また、風はまわりの山々にさえぎられて弱められている。降水量は本道の平均的な量で積雪は近年少なめである。



出典 気象庁 HP(2009 年)

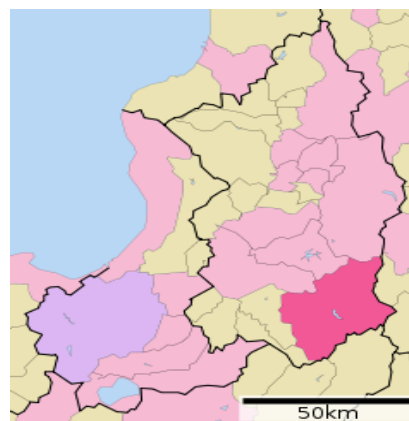
3-2 地理

図 4 夕張市の位置



出典 ウィキペディア

図 5 夕張市の位置

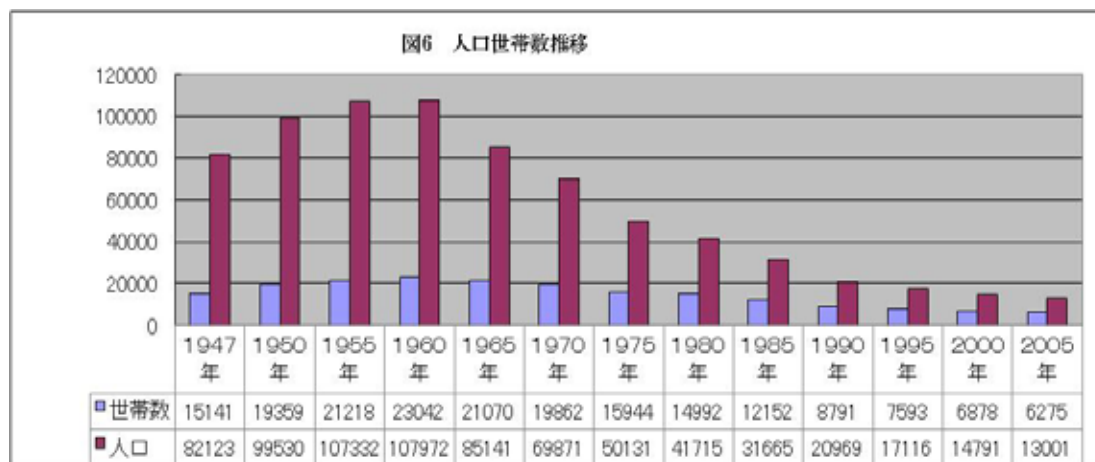


出典 ウィキペディア

夕張市は、北海道のほぼ中央、空知地方の南部に位置しており、東端は東経 142 度 20 分、西端は東経 141 度 54 分、南端は北緯 42 度 51 分、北端は北緯 43 度 13 分の位置にある。夕張市一帯は夕張山地の豊かな森林や清流に育まれた丘陵で、夕張岳（1668m）から流れる夕張川とその支流が市内のほぼ中央を貫き、流域に沿って帯状に街が形成されている。

4・人口世帯数推移

1965 年までは増加傾向にあったが、それ以降減少し続けており、今では最も多かった時の 10 分の 1 にまで減少した。人口減少の背景には、石炭産業の衰退が関係しており、鉱山が閉山していくと共に人口も減っていった。また、農業にも向かない地域だった上、石炭産業以外の産業が皆無同然だったため雇用の受け皿がなく働き手の若者が都市へ流出したのも人口激減の背景にある。



出典 国勢調査

5・夕張市の産業

夕張市は1900年初頭～1980年代までは石炭産業が中心だったが、それに依存していたため、炭鉱が閉山してからはそれに代わるものはなかった。そこで観光産業として閉山した炭鉱に目を付け、石炭産業がどれだけ日本経済に影響を与えたかを伝えることを目的に石炭博物館等を設立し、観光産業を展開していった。夕張市の産業において農業地域は、四方を山岳に囲まれた



出典 夕張市提出資料(2005年)

地勢から、農地は夕張川など中小河川沿いに帯状に拓け、河川流域以外農耕適地を求められない土地条件から、耕地規模は零細で農業条件は恵まれていないことから農業はあまり発展してこなかった。そんな状況を打破しようと、メロンにおいて1960年にメロン組合が結成され、1961年にアールスメロンとスパイシー種の交配に成功し、夕張メロンを売り出してからは農業を盛り上げてきた！最近では特産品として夕張長いも・花豆缶詰なども売り出

していった。下図からわかるように夕張市の農業は「メロン」という特産品に大きく偏っているのでもしメロンが不作になったら他に頼るものがないという側面をもっている。

図 8 作付面積(ha)

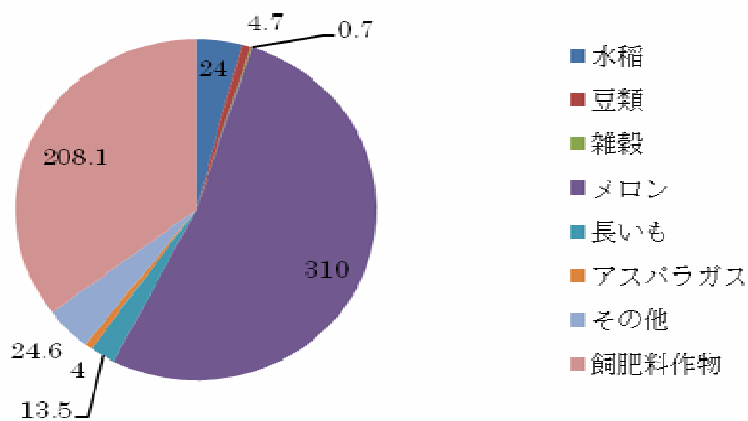


図 9 生産量(t)

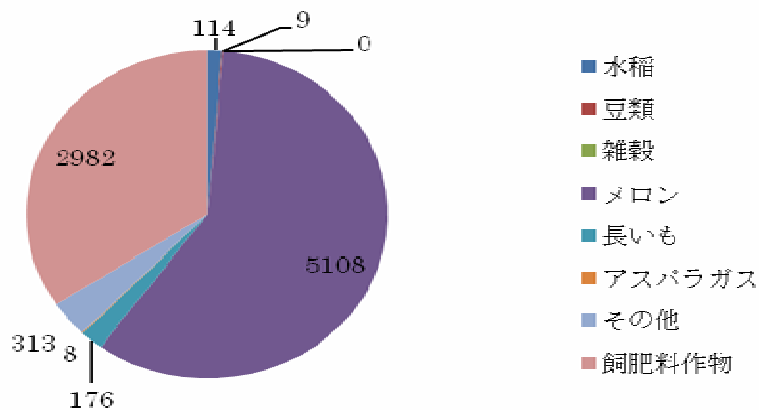
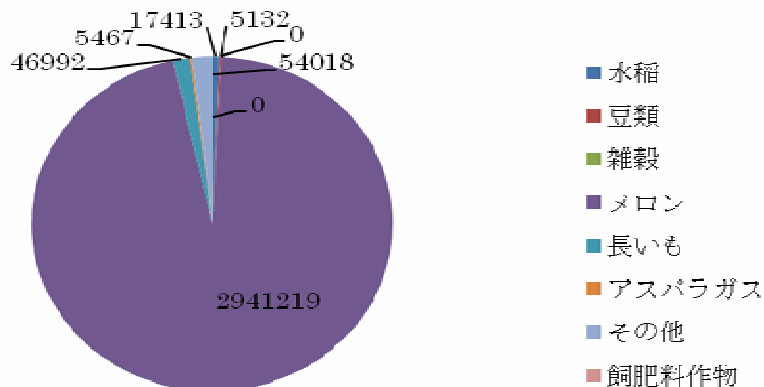


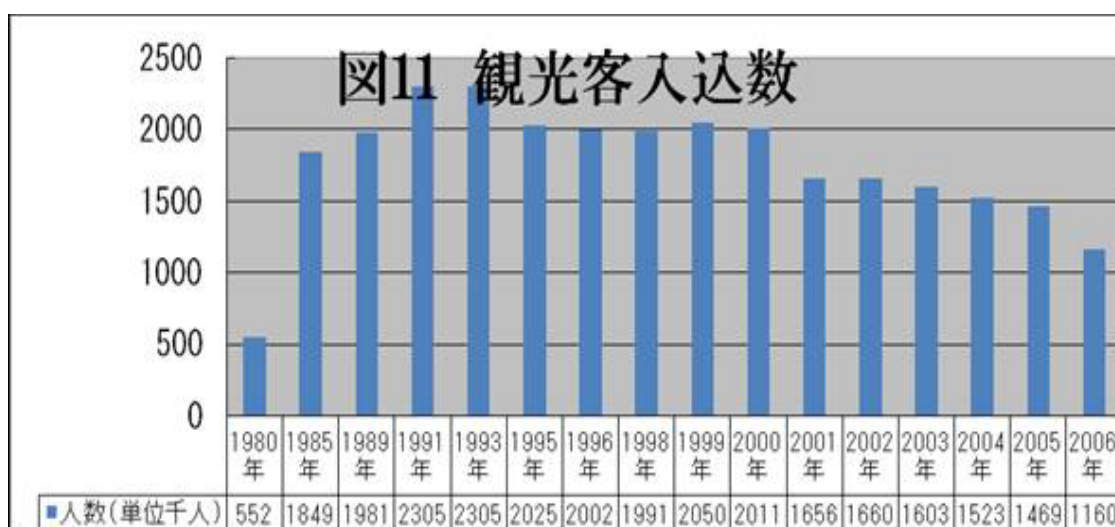
図 10 生産額(千円)



6・観光

6-1 観光入込客数

イメージチェンジを図るための事業として、観光開発を検討したが、いわゆる観光地につきものの観光資源が夕張市にはなかった。そこで、かつて石炭を採掘していた本物の炭鉱を核に、石炭産業がいかに日本経済に大きな役割を果たしてきたかという歴史を後世に残すことを目的に、1980年7月「石炭博物館」を建設し、観光客を増やしていった。しかし近年は、その石炭での観光事業の人気も落ち始め、観光産業の基盤となるものも石炭ぐらいしかないため、観光客も年々減少してきており、最盛期の半分ほどにまで減少してきてしまっている。



出典 夕張市提出資料

6-2 石炭の歴史村

石炭の歴史村は、夕張市にあるテーマパーク。広大な夕張炭鉱の跡地を利用して造られたものだ。マスコットキャラクターは「ゆうちゃん」である！開村直後は人気だったが、今では観客動員数は減ってきている。夕張市の財政再建策のなかで、当初は閉鎖が予定されていたが、夕張を支えた炭鉱産業に触れることのできる施設は歴史・資料的価値が高いとして、存続要望の声が多く挙がった。

図 12 石炭博物館



出典 ウィキペディア

6-3 メロン城

メロン城（めろんじょう）は、夕張市にある農産物処理加工施設。外見は西洋の城郭をモチーフにしている。見学は自由であり、ブランデーやリキュールの製造工程を見ることができる。また、夕張観光物産センター「カサブランカ」が隣接しており、そこではブランデーやリキュールの試飲も可能である。石炭産業が衰退してきたとき、その代替になるものとして建てられたものである。

図 13 メロン城



出典 ウィキペディア

図 14 マウントレースイスキー場

6-4 マウントレースイスキー場

マウントレースイスキー場は、19 のコースバリエーションは初心者から上級者まで楽しめ、アフタースキーには隣接するホテルの温泉でゆっくりくつろぐことができる。



出典 夕張市 HP

7・財政破綻

夕張市は 2006 年に深刻な財政難のあおりを受け、2007 年 3 月 6 日をもって財政再建団体に指定され、事実上財政破綻した。かつて夕張は炭鉱の街として栄えたが、「石炭から石油へ」のエネルギー政策転換により、次々と炭鉱が閉山されていった。1990 年には最後の三菱南大夕張炭鉱が閉山し夕張から炭鉱がなくなった。

これにより、炭鉱会社が設置した鉱員向けのインフラを市が買収する。1982 年、北炭が所有していた夕張炭鉱病院を市立病院移管に対して夕張市は 40 億円を負担している。さらに北炭は、夕張新炭鉱での事故を理由に、鉱産税 61 億円を未払いのまま撤退（倒産で払えなくなったとも）。また、北炭・三菱は炭鉱住宅 5000 戸（市営住宅に転換）や上下水道設備などを夕張市に買収してもらい、額は 151 億円に達した。結果「炭鉱閉山処理対策費」は総額 583 億円に達した。

市は、石炭産業の撤退と市勢の悪化に対し、「炭鉱から観光へ」とテーマパーク、スキー場の開設、映画祭などのイベントの開催、企業誘致により地域経済の再生、若年層を中

心とする人口流出の抑止、雇用創生などを図ったが振るわず、逆に観光・レクリエーション関係の衰退期または観光・レクリエーション関係環境に恵まれないのに派手な観光・レクリエーション投資を行った過大な投資や放漫な経営が累積赤字として重くのしかかり、市の財政を圧迫していったのも財政破綻につながった。

財政再建計画として「映画祭」は中止、市職員給与削減を2006年9月から実施し、市長は50%、助役は40%、教育長は25%、一般職員も15%カットとなった。2007年4月からは、さらに削減され、市長の給与は全国最低となる。市議会議員の人数も18人から9人になった。更には新規職員採用凍結や早期退職勧告により職員数も削減を予定している。また、市が保有する観光施設31施設の内29施設を運営委託、売却、廃止する方針も明らかになったが、道内観光大手の加森観光を中心に委託・売却先がほぼ決定した。市民負担も大きくなり、市民税、固定資産税、軽自動車税が増額、入湯税150円も新設される。また、ごみ処理は一律有料化、施設使用料も5割増、下水道使用料も値上げされる。敬老パスは廃止予定だったが、個人負担額を200円から300円に引き上げて存続されることとなった。この影響もあって転出者が相次ぎ、2006年・2007年の二年間で人口が1割近く減少した。公共施設に関しては、多くの施設が廃止されることになっていたが、世論の反発などもあり見直された。

経費削減が予想以上に効果的であり、借金返済も順調であるが、依然として楽観視はできない状況である。

参照 HP

- ・ウィキペディア：<http://ja.wikipedia.org/wiki/>
- ・夕張市 HP：<http://www.city.yubari.lg.jp/index.html>
- ・夕張市提出資料：<http://www.cao.go.jp/bunken-kaikaku/iinkai/kaisai/dai09/09shiryou1>
- ・気象庁 HP：<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/>